

## 高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業（センター利用促進事業）

### 「秋会期直前！3倍楽しむ！瀬戸内国際芸術祭」を開催しました。

令和元年9月6日金曜日に、NPO法人瀬戸内こえびネットワーク事務局長の甘利彩子さんを講師にお迎えし、「秋会期直前！3倍楽しむ！瀬戸内国際芸術祭」を開催しました。瀬戸内国際芸術祭（瀬戸芸）は、当初より、アートを通して、美しい自然と人々との交流を深め、瀬戸内の島々に活力を取り戻そうという意味を込めて、「海の復権」をテーマに行っているそうです。



まずは、瀬戸芸の舞台となる瀬戸内（瀬戸内海）についてお話しいただきました。瀬戸内は昔から穏やかな気候で、魚がたくさん獲れるため、多くの人々が住んでいました。1826年、医者・博物学者のシーボルトがヨーロッパから訪れた際に、瀬戸内海を見て凄く綺麗だと感動したそうです。そんな瀬戸内で瀬戸芸が始まって、県外から多くの方が訪れるようになり、10年目頃からは海外メディアからも注目され、「SETOUCHI」という言葉が浸透され出しました。ニューヨークタイムズ等の雑誌では、今年行くべき場所として、「瀬戸芸がある瀬戸内に行こう！」ともお薦めされているそうです。

瀬戸内について少し触れた後は、秋会期に会場になる島々の中から、講師がお薦めの島についてお話しいただきました。例えば、豊島では、竹藪になってしまった棚田を島民が整備して建てられた豊島美術館があります。建物内は床底から水が湧き出る仕掛けになっており、水が流れるのをジッと見たり、館内に響き渡る音を楽しむという造り（美術館全体が一つの作品）になっています。そのため、言葉が通じないどんな国の人でも楽しめます。また、講師曰く、天井も穴が開いているので、雨が降ると雨音も楽しめて特にお薦めだそうです。他にも、与島地区5島の人々が島どうしの親睦を深めるためにと、アーティストの五十嵐靖晃さん主導のもとで作った漁網のアート作品が、秋会期には、さらに他の島々でも編まれた漁網と連結されて、本島で展示されるそうです。

講座の後半は、瀬戸芸をより楽しむためのお薦めチケットの紹介や、講師が所属している「こえび隊」の活動についてお話しいただきました。こえび隊は、瀬戸芸の会期中は各島での受付案内等をしていますが、会期外には瀬戸芸に向けて、アーティストの作品作りのお手伝いや清掃をしているそうです。受講生の多くは、今まで瀬戸芸に行ったことがあるとのことでしたので、「興味のある方は、ぜひ、こえび隊に参加して、瀬戸芸を別の角度から楽しんでみてください。」と講師が話を締めくくり、講座が終了しました。

#### 【参考文献】

- ・『瀬戸内国際芸術祭 2019』 / 瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局 / <https://setouchi-artfest.jp>
- ・『瀬戸内国際芸術祭サポーターこえび隊』 / 特定非営利活動法人瀬戸内こえびネットワーク / <https://www.koebi.jp>